

唐人の寝言・隠岐郡隠岐の島町津戸

令和3年12月7日

収録・解説・酒井 董美

イラスト・福本 隆男



語り手 小野イヨさん（大正5年生まれ）
収録・昭和52年7月29日

あらすじ

唐人の寝言には
オオシヨ テレスコ
アンネーロ ギンカネ
キンカニキンチョウサイテテ
イレース
イチズクヤーン
オトトコシンタン
カンボンタン
イラナイショウボワ
ズンベラ ボントコ
ネーターカ
ツウハアハ

「あらすじ」としたが、体裁を揃えるためそうしたもの、実際はそのままである。

昭和五十二年の七月と八月。県立隠岐島前高校郷土部は、隠岐の島町都万（旧都万村）の民話や民謡、わらべ歌などを収録するために四泊五日で旧都万村の遊魚管理センターを宿泊所として合宿した。そのおり、筆者がうかがった歌の一つがこれであった。うたつてくださった小野さんは大正五年生まれの

方であったので当時六十一歳だったが、何人かのお孫さんを前に、楽しそうに教えてくださった。そのときの小野さんの話では、この歌は特別の意味はないそうだが、なるべく早く言い間違えずに言うのがおもしろくて、友だちと言い合って楽しんだものです、とのことだった。つまりこれは早口言葉の一種というべきものなのである。

それから二年後、同校郷土部と松江市立女子高校民話研究会の合同調査を旧五箇村で行ったさい、たまたま同類が見つかった。それは先のものともあまり違わない次のような詞章であった。

以前は外国人のことを、

おしなべて唐人と呼んでいた。そしてこの歌は出だしの「唐人の寝言には」こそ日本語であることは理解できるが、それから後の詞章では「キンカネ、ビンカネ」が、「金かね、銀かね」とでも受け取られそうな語句はあるものの、大半はどう考えても意味不明で、外国語のような詞章が続いている。

それを言い間違えずに、より早く言った者が勝利するという、いかにも子どもたちが喜びそうな遊びになっているところ、この歌の存在意義がある。

詳細は省略するが同類は、同郡海士町保々見の徳山千代子さん（明治三十七年生）からもうかがっている。筆者としては、今のところ

隠岐以外では、まだ収録をしていない歌である。けれど、以前、確かにどこかで聞いたことがあるように思えてならないが、それがはたしてどこだったのか、思い出せないのであんなか思い出せないものである。

（元島根大学法文学部教授）